

1 題材名

鑑賞 「私が選んだ歌手をプロデュースしよう」

教材名 「魔王」(ゲーテ作詩、シューベルト作曲)

- ① 原田茂生(バリトン) P:加納悟郎
- ② 田島好一(バリトン) P:田辺緑
- ③ 青戸知(バリトン) P:服部容子
- ④ ディートリッヒ・フィッシャー＝ディスカウ(バリトン) P:ジュラルド・ムーア
- ⑤ ヘルマン・プライ(バリトン) P:カール・エンゲル
- ⑥ 伴奏のみ P:ノエノー・ヤンド

参考 ・ 映像 ジェシーノーマン(ソプラノ)

・ 映像 ディートリッヒ・フィッシャー＝ディスカウ(バリトン)

2 題材について

《学習指導要領のかかわり》

B	鑑賞 (1)	ア 音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりを理解して聴き、 根拠を持って批評するなどして、音楽のよさや美しさを味わうこと。
	[共通事項]	ア 音色 旋律 テクスチャ 強弱 イ アーティキュレーション

(1) 題材観

本題材は、音楽の良さや美しさを味わうために、生徒が自分なりの感じ方や、客観的な根拠、自分にとっての価値を述べ、それらを意見交換することによって、個人では聴きとることができなかった新たな価値を発見し、音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりへの理解を深めることをねらいとしている。これは、昨年検見川小学校で金高先生が行っていた「自分の好きな『木星』を選んだ理由を言葉で表す」授業(小学校5,6学年の鑑賞(1)ウ「楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表す」などして、楽曲の特徴や演奏の良さを理解すること。)の発展でもある。

1年生の「音楽を形づくっている要素や構造と曲想を感じとって聴き、言葉で説明するなどして音楽の良さや美しさを味わう。」を経て、2,3年生の「～曲想を理解して聴き、根拠を持って批評するなどして～」という段階になる。特にこの題材では生徒自身が主体的に価値をつけ、「プロデュース」や「売り出す」という状況設定によって意見交換を活発にし、客観的な感覚を持って検討することで、自分の価値意識を再確認し、音楽の構造に対する理解を深めていきたい。その上で、今後の鑑賞教材である、総合芸術の多様な表現、交響曲第5番ハ短調(ベートーベン)などの学習に発展させたい。

またこの題材は、7月以降の「合唱コンクールの自由曲をアナリーゼしよう!」という学習にもつなげる。表現領域では、1年生時にアナリーゼ＝楽曲分析という意識づけや、楽譜や記号に意識を向けることに

終始し、表現方法については、教師が示したパターンから簡単な意見交換をもとに直感的に選択した。そこで、本年度は本題材の学習を生かして話し合い、深める経験をさせたいと考えている。2, 3学年の表現(1)ア「～曲にふさわしい表現を工夫～」、イ「～特性を理解して、それらを生かして～」、ウ「全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫～」に結び付けて、1年後に集大成となる3年生の合唱へ向かわせたいとも考えている。

(2) 生徒の実態(男子19名、女子12名)

今では意欲的に取り組む生徒が多いが、昨年の入学時には楽譜、記号や用語等の知識が定着している生徒が少なく、発声や音程もあまり安定していないため、幅広い音に実感を伴わせた捉え方ができない様子があった。そのため多様な音楽に触れ、鑑賞領域と表現領域を行き来する中で、「音程」や「速さ」、「アーティキュレーション」等に意識を向けるように計画をしたが、鑑賞の1年生の目標である「言葉で説明するなどして」という点について、言葉にすることはなかなか上手にいかないまま進んできた。4月の「授業でどんなことを学べば音楽を一生楽しむことができるか。」という問いに「楽譜が分かる。」「色々な楽器に触れ、扱いを知る。」「歌をもっと上手にする。」「色々な種類の音楽を知る。」という答えが多く、課題意識と共に、多様な音楽を受け止め、楽しみたいという気持ちの高まりを感じている。音に対してイメージを持つ力はどの生徒にもあり、少々難しいことにも前向きに取り組む姿勢ができてきたので、音楽を形づくっている要素や構造から連想される言葉を提示するなどして語彙を増やし、使い方の学習を積み重ねることによって、いずれは「根拠をもって批評するなどして」という2, 3年生の段階に迫りたい。まずは、この学習を通して、自分のイメージを言葉にして語る姿勢を育てたい。

(3) 指導観

シューベルトの『魔王』は1年生で学習する。1年生の終わりに「原田茂生(Br.)」「ディートリッヒ・フィッシャー＝ディスカウ(Br.)」を使い、「作詩・作曲者、作曲の状況、詩の内容と『子』についての工夫、伴奏の3連符や低音での連打(「春」のソネットD「黒雲～」との関連)の効果、『魔王』は誘拐しようとしているから『子』『父』に比べて明るい(怖くない)感じ」という、作曲の工夫を中心に2時間をかけ、最後はドイツ語数語を理解し、日本語とドイツ語が併記された伴奏譜付きの楽譜を追いながらドイツ語で鑑賞した。

今回は、曲中に3回登場する『魔王』の伴奏に着目し、作曲者の意図を考え、『魔王』のイメージをよりはっきりさせ、自分のイメージに合っている歌手を選ぶ。この教材の面白さは『魔王』の伴奏部分にあると考えて、以前から1年生で扱ってきたが、1年生半ばでは楽譜を読む姿勢に差があり、また、変声も進んでおらず、実感を持って深めるほどに時間がかけられなかったという状況から、2年生でこの内容を実施することにした。

『父』『子』の伴奏型は、右手が一定音を使った3連符の連打で緊張感や疾走感を表しているのに対し、『魔王』場面は以下のように変化する。

『魔王』①: 右手の拍頭が休符になり左手の低音が聞こえるため、軽快な馬の足音になる。

『魔王』②: 3連符が上向と下向を組み合わせた分散和音になって音が波打ち、浮揚感がでる。

『魔王』③: 『父』『子』と同様の一定音連打になり、前2回から一転する分、不気味さが増す。

また、歌唱譜には強弱記号がないので気付きにくいですが、伴奏譜には強弱が明示されており、『魔王』の場面は①*pp*②*ppp*③*pp*→歌い終わり*fff*と、『父』『子』場面と対照的な音量であり、感情の起伏と共に『魔王』の在り様、遠近感を示唆している。

例年、「馬に乗って疾走している(必死に馬を走らせている)『父・子』に対して、『魔王』は疾走しなが

ら『父・子』に並走しているか？」とい問いに、「疾走ではない。」「1回目:軽々とゆとりを持ってついてくる(から怖い)。」「2回目:地面に足がついていない。浮いてふわふわ漂っている。まわりついてくる。」との生徒の答えが一般的である。中には『魔王』の魔術エリアは広く、遠くにも近くにも出没し、優しく遠くから誘っていたのが、3回目:最後に急に近づいた。」というものもあり、アニメーション等の映像普及によって、以前より、情景の具体的な様子を思い浮かべ易くなっている生徒が増えてきているようにも思う。

今回は『魔王』部分の聞き比べをし、より『魔王』のイメージに近い表現をしている歌手を個人で選び、その後、歌手を「売り出す」プロデューサーとして、歌手の良さについて根拠を持って仲間を紹介し、購入を説得する中で、音楽を形づくっている要素や構造などの客観的な理由を挙げながら、音楽を説明する方法を学ぶ。

聞き比べの条件として、以下を提示する。

- ◇ 強弱(ダイナミクス)のつけ方の変化や歌と伴奏のバランス(テクスチュア)に着目する。
- ◇ 音色(声色)、旋律の歌い方(アーティキュレーション)に着目する。
- ◆ 日本語・ドイツ語の違いは考えない。(聴衆は日本語もドイツ語も理解すると考える。)
- ◆ 声域(今回は、全員バリトンであるが)の違いによる調の違いは考えない。
- ◆ 容姿や年齢の違いは考えない。
- ◆ 日本語の微妙な言い回し(リズム)の違いは考えない。自由な表現と捉える。

指導者としては、フィッシャー＝ディスカウの情景描写の中にも抑制された品の良さを第1と考えるが、プライのオペラ風な抑揚となめらかさや、青戸のドラマチックさも生徒には魅力的であろう。原田、田島の両雄は、強弱の時点で物足りなく、生徒も支持しないと予想する。

なお、今回は主体的な価値づけに加え、客観的な感覚を持って検討するために「プロデュース」や「売り出す」という状況設定で多くの聴衆を意識した表現を求めるが、実際には、少数派と考えられた表現も、立場や時代の変遷で価値が見いだされる例もよくあるので、表現の多様性の大切さについても触れておきたい。

また、聞き比べの音源は、学校現場で入手しやすく、チャプター番号によって『魔王』場面がすぐに選択できるため、全て、教育芸術社の教科書に添付されたCDを使った。

3 題材の目標

自分が選んだ歌手の良さを、音楽を形づくっている要素や構造などの言葉で表す。

4 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・ 『魔王』の登場場面を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、強弱、アーティキュレーションと曲想のかかわりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『魔王』の登場場面を形づくっている音色、旋律、テクスチュア、強弱、を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠を持って音楽の良さや美しさを味わって聴いている。

5 研究の視点について

【視点3】「音楽を形づくっている要素」を支えとして思考・判断・表現力を育てる授業改善

- 音楽を形づくっている要素(音色、旋律、テクスチャ、強弱、アーティキュレーション)をもとに、自分がイメージしている魔王の登場場面を表現している歌手を1名選出する。その過程の中で、音楽を形づくっている要素(音色、旋律、テクスチャ、強弱、アーティキュレーション)をもとにその音楽の特質や雰囲気を感じながら思考力や判断力を育て、いずれ、演奏の表現力としても表わさせたい。

6 題材の指導計画（2時間扱い）

時	○学習内容・主な学習活動	評価規準
	ねらい 自分が選んだ歌手の良さを、音楽を形づくっている要素や構造などの言葉で表す。	
第1時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 『魔王』の登場場面の伴奏型から作曲された意図を考え、この場面を形づくっている音色、旋律、テクスチャ、強弱、アーティキュレーションからもっともよいと思う歌手を選ぶ。 ・ 伴奏型の3パターンを楽譜で確認し、伴奏の演奏を聴く。 ・ 作曲者がどんな意図を持ってこの伴奏型にしたのかを考える。 ・ 『魔王』のイメージをより詳しいものにする。 ・ 形づくっている要素を表す言葉を確認し、3つの場面ごとに5人の歌手の演奏をCDで聴き比べ、イメージに合うと思う歌手に理由を書いた付箋を貼って投票をする。 	『魔王』の登場場面を形づくっている音色、旋律、テクスチャ、強弱と曲想のかかわりに関心を持ち、鑑賞する学習に主体的に取り組もうとしている。(関心・意欲・態度)
第2時(本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒個々の批評箋から音色、旋律、テクスチャ、強弱、アーティキュレーションをもとに、より自分のイメージに近い表現をしている歌手を選ぶ。 ・ 歌手を売り出すプロデューサーとして、音楽を形づくっている要素を中心にイメージがよく表現されている聴きどころを例文にあてはめて説明する。 ・ 会議で他と比較しながら進められるように、異なる2人の歌手について4～5名のグループを作り、プロデューサー会議をする。 ・ 推薦する理由の意見交換をし、CDを何度も聞き直し、イメージに合うかどうかを確認する。 ・ 聞き直しと意見交換を繰り返す。 ・ 推す歌手について意見が変わったら、色を変えた付箋を貼り直す。 ・ 説得力のあるプロデューサーや売り方の上手なプロデューサーについて、学級で確認し、その方法の良いところを共有する。 	『魔王』の登場場面を形づくっている音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想のかかわりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠を持って音楽の良さや美しさを味わって聴いている。(鑑賞の能力)

7 本時の学習（2 / 2）

(1) 目標

「自分が選んだ歌手の良さを批評しあうことができる。」

(2) 展開

学習内容と学習活動	○教師のかかわり ◆評価規準(評価方法)
<p>導入(15分)</p> <p>1 付箋を貼った表を見て、集票具合を確認し、本時の目標と授業の流れを知る。</p>	<p>○ 生徒の敬称を「プロデューサー」にし、モチベーションを上げる。</p>
<p>『魔王』のイメージについて音楽を形づくっている要素をもとに考えながら話し合い、 自分が売り出したい歌手を選ぼう。 ～一番売れる歌手はだれ？名プロデューサーとして検討しよう～</p>	
<p>2 推薦する歌手の良さを文末に「買って下さい。」をつけた例文を参考に発表し、CDによって音を確認する方法を知り、ワークシートへの記入をする。</p> <p>※例文1 「～というイメージを ○○(音楽を形づくっている要素)が △△の様に表現されているので、 ぜひ買って下さい。」</p> <p>※例文2 「○○(音楽を形づくっている要素)が △△の様に表現されていて ～というイメージにぴったりなので ぜひ買って下さい。」</p>	<p>○ 「プロデューサー」として「売り出す」という視点を示し、音楽を形づくっている要素を根拠として推薦する理由を、より具体的にあげるように助言する。</p> <p>○ 教師がやって見せ、数人を指名して、話し合いの見本を示す。</p> <p>○ 歌手別、場面別に録音したCDとCDプレーヤを音楽室、調理室に用意をし、生徒が自由に確認できるような環境を整える。</p>
<p>3 付箋の書き足しや梁直しを行う。書き足しは赤ペンで行い、歌手の変更は青色の付箋を使う。</p>	<p>○ 書き足したり、変更したい生徒のために、書き足す際のペンの色や付箋の在りかを明確にしておく。</p>
<p>グループワーク(20分)</p>	
<p>4 グループに分かれてプロデューサー会議を行い、自分たちがプロデュースする歌手の宣伝文句を最後に「ぜひ買って下さい。」をつけ、音を聴き直す形で、聴きどころをお互いに述べ確認する。</p>	<p>○ 総合欄への集票の様子により、聞き比べ、意見を対比して考えられるよう、1グループに2人の歌手の支持者を混在させた4～5名のグループに分ける。</p> <p>○ 「プロデューサー」として「売り出す」という事を強調し、相手に買う気にさせるために、音楽を形づくっている要素を中心により具体的な言葉を並べてアピールし、相手を説得するよう勧める。</p>

5 最終決定をした歌手に付箋を貼る。変更の場合は青の付箋にする。

全体活動(10分)

6 一堂に会し、説得力を持っていたプロデューサーの紹介内容を知り、CDで音を確認する。

7 全体活動の発表をもとに歌手の最終変更をする。付箋を張り替える場合はピンクを使う。

まとめ(5分)

8 付箋の書き足しや変更を全員で見て、この時間の成果について確認し、授業の感想を書く。

9 今回の様に音楽を形づくる要素をもとに表現を選ぶ方法は、今後の合唱コンクールをはじめ、一般的な鑑賞でも使われることを確認する。今回は魔王部分だけを取り上げたが、子や父の場面とのバランス等もあり、また、選ばれなかった歌手についても価値が高く、場合や時代などによって選定基準が変わることも知る。

- 終了の時間を明示し、それまでに推薦する歌手を最終決定するように指示をする。
- 他のグループとの会議も必要であれば認める。
- 途中で、推薦する歌手の変更を考える生徒の相談にのり、青の付箋で張替えをさせる。

- 「買う気になりましたか?」「売り方の上手なプロデューサーは誰ですか?」という発問を全体の前でそれぞれのグループにし、名前の挙がった生徒が実演する。出ない場合は、机間巡視の観察によるやり取りの紹介をし、再演させる。
- 発表後に全員でCDを聴くことによって、紹介の仕方の良いところを共有し、確認させる。

◆ 音色、旋律、テクスチャ、強弱、アーティキュレーションの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、音楽を形づくっている要素や構造と曲想とのかかわりを理解して、解釈したり価値を考えたりし、根拠を持って音楽の良さや美しさを味わって聴くことができたか。

(鑑賞の能力：付箋とプリントの内容、発表の内容、机間巡視や授業への取り組みの観察により評価する。)

- 表を全員で確認し、付箋の書き足しや変更について、音楽を良く聴きとり、音楽を形づくっている要素を吟味した結果として、今後の意欲につながるようにほめる。
- 『魔王』を「悪魔」と捉えるか、「精霊の王」と捉えるかでも表現が違ってくることを指摘し、イメージに対する音楽的要素の洗い出しがアナリーゼであることを確認する。
- 授業の過程で、子や父とのつながりや役柄間のバランスについての意見が出た場合は、魔王に集中するようにアドバイスするが、大切な視点として、授業の最後に言及する。